

■コミュニティだより VOL.17

特集 『子供たちにやさしいまちづくり』

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会

仲間 奥深い「水墨画」の世界

生涯学習として

一人でも、いくつまででもできるのが魅力

雪村アトの会

近頃、水墨画がたいへんなブームのようだ。

どこのカルチャーセンターでも受講者があふれんばかりだそうだが、三春町にも「雪村アトの会」がある。

おそらく田村郡内では唯一の水墨画の会とのこと。

毎年秋の文化祭では、とても人気の高い展覧会を開催している。今年で八回目という文化祭の準備中の時期、秋晴れの午後、会長の松井栄次さんの家を訪ねた。

「アト」は、「探検」習得の意

まず、誰もが不思議に思うのが会の名称「雪村アトの会」。

室町時代末期の禅僧画家、雪村周継が三春に深い関わりがあることは周知のこととしても、「アト」の部分がわからない。

松井さんにそのことを聞いてみると、設立の際のしおりを見せてくれた。



▲月に2回、公民館での創作活動

それによれば、数多くの名画を残した雪村の筆法などを道しるべに、探検（アドベンチャー）、習得をとの意から名称がつけられたとのこと。

雪村アトの会は昭和六十二年九月に結成され、今年で八年目。

現在、会員は十一名（男性二名、女性九名）。「二十名くらいにはしたい」と松井さんは語った。

毎月、第一・第四土曜日の午後が例会で、郡山の佐久間守勝先生に指導していただいている。

その月の課題を決めて、先生の指導を受け、自習・研究する。ちなみに十一月は和紙のはがきで、年賀状の制作。十二月はカレンダーづくり……と季節に合わせて魅力ある内容の年間プログラムが組まれていた。

今年の文化祭（十一月十一日から十三日）には、会員がそれぞれ三、四枚の作品を出品するそうで現在頑張っているところだそう。

二階のアトリエに案内してもらおう。

三春の風景を 水墨画で

窓から秋の穏やかな風景を臨む、とても良い環境で創作活動は行われていた。

「今、挑戦しているのは、三春の冬の風景なんです」という傍らには真っ白に雪化粧した故郷三春の写真があった。

「日本画の基本で、四君子というのは『蘭、竹、梅、菊』をいうんです」

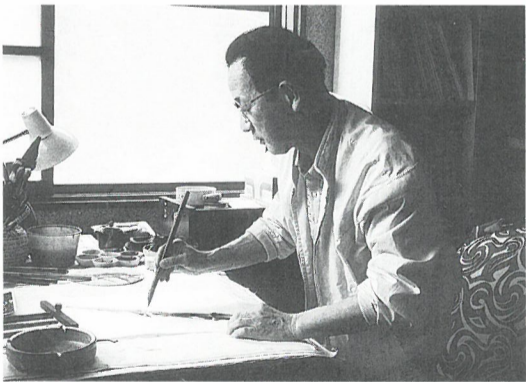
「一番黒いところを先に書く。その上から淡い部分を書いて行くんです。そうして、乾いてくると、最初に書いた部分が浮き出てくるんですよ」という説明の通り、時間とともに絵の表情が変わっていった。

自由のびのびした創作活動

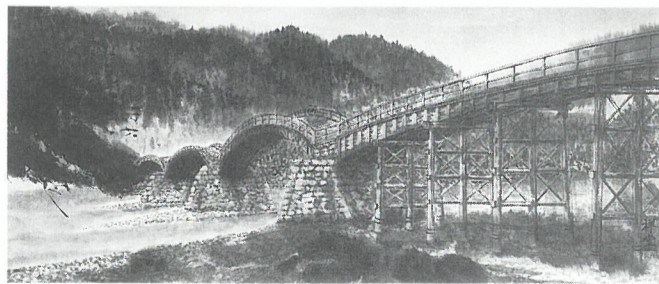
十月末の土曜日、雪村アトの会の練習会場におじゃました。

この日の課題は「月夜・沼辺の夕暮れ」という絵で、

▲会長の松井栄次さん



松井さんの作品「錦帯橋」



移転性の絵の研究が目的。会員ひとりひとりが、思い思いに絵筆を走らせて行く。……見てみると、それぞれに個性がある。どれも素晴らしい。

長流と呼ばれる筆一本でほとんどのものが書けるのだそう、筆三本くらいで気軽に始められるのが水墨画の良いところ。

雪村アトの会では、先輩が良く教えてくれるので誰でもすぐに楽しめるという

趣味の集いなので堅苦しいことはなし、という会の運営方針がゆきわたっていて、ひとりひとりが自由に伸び伸びと創作活動をしているという雰囲気、既成のカルチャー教室とは、ひと味違う。

松井さんに水墨画の魅力をうかがった。

「すべての芸術がそうであるように、これでいいということはない。いつも試行錯誤の連続です。でも、プロじゃないところが気楽なところで、生涯学習として、一人でも、いくつまででもできるのが魅力かな。」

今制作中の、三春の風景……三春の美しさを墨の濃淡だけであらわした作品を近いうちに是非見せていただきたいとお願いして、インタビューを終えた。



▲今年の文化祭の展覧会風景

特集

子供たちにやさしいまちづくり

安心して遊べるスペースとは  
未来に向けてできることは

九月二十八日、青少年活動団体『かたつむりの会』、『みはるっこの会』、『みどりの子供会』の三団体の方と三春まちづくり協会・生活部会との懇談会が行われましたが、その懇談会の話には数多くの問題、課題が含まれていると思われました。広報委員会では今回、その中でも特に「子供たちにやさしいまちづくり」というテーマに絞って、十月十八日夜、三春町役場三階和室に三団体の方と生活部会の方に再度集まっていたいただき、話をお聞きしました。

出席者

- ▼かたつむりの会  
佐藤さん、渡辺さん、山口さん
- ▼みはるっこの会  
金子さん、松本さん
- ▼みどりの子供会  
須藤さん、遠藤さん
- ▼三春まちづくり協会生活部会  
池上、浮内
- ▼三春まちづくり協会広報委員会  
永井(司会)、飛田、角、佐藤、降矢、大槻、斎藤、中村、松本



かたつむりの会 佐藤さん

(かたつむりの会) 私たちの会では「おもちゃ図書館」

(司会)「子供たちにやさしいまちづくり」というテーマでお話いただきます。前半は、「子供たちが安心して遊べる場所や施設」、後半は「子供たちに伝えていきたいこと」、「子供たちの未来に向けてまちづくり協会、行政、親が出来ること」の観点から話をさせていただきますと思います。



みはるっこの会 松本さん

というのを開設しました。まだ場所が無く、役場を借りています。障害を持っていく子供たちが自主的に遊ぶということが狙いで、まだ、あまり宣伝はしていませんが、いろんな話が出てくるスペースにしてみたいと思っています。

子供のおもちゃの持ち方ひとつでも、そこに自分の発想が働いています。安心して障害児も健常児も一緒に遊べる、そういう広いスペースを作りたいと思います。児童館をつくるのであれば、そんなスペースがほしいですね。(みはるっこの会)「段ボール大作戦」というのをしました。子供たちが段ボールで、自由に作るというものです。大人が思いも付かないようなものが出来、空間、仲間が大事だと感じました。(みどりの子供会) 小さな



みどりの子供会 遠藤さん

に提言として持っていくことが出来るんじゃないかなと思われました。(みどりの子供会) 芋煮会とスポーツ大会を大平荘でしたのですが、ゲートボールなんです。他の公園や遊園地もゲートボールなんですよ。

公園はたくさんあるけど、広い公園が無く、芝生があって子供たちが伸び伸び遊べる場所がほしいと思います。キャンプファイヤーが出来、バンガローがあり、小さな動物がいて、池があれば理想的ですね。(広報委員) 今の話で共通するのは、広いスペースが無いということですね。町

整地されてなくても  
近くに広いスペースがほしい

(広報委員) 来年度から学校も月二回土曜日が休みになるようですが、条件整備が整わないか、と思います。(広報委員) 色々施設を作るにしてもあまり遠い所では意味がない、子供たちだけでも気軽にに行けるようなものがほしいですね。(みはるっこの会) 小さい子供にとっては整地されてなくて良いんです。草があっても山があっても、凸凹があっても良いんです。そこで転べば痛いということ

でも、空き地がきれいに整地されると、そこにロープが張られたりするんです。(司会) 小さな公園はなぜ利用されないのでしょうか。(みはるっこの会) 子供が小さいうちは砂場とブランコだけでも良いが、大きくなると自転車、ストリートバスケットなどをやりたい。小さい公園も大きい公園もバランス良く作ってほしいですね。広い場所を本当にほしがっているのは中学生ではないかと思えます。

活動の紹介

かたつむりの会

障害を持った子供達の自立と社会参加を支援する目的で設立。会員同士の悩みごとの話し合い、他団体との交流等の活動を通じ、「地域の中に生活できる」「地元で愛される」ということを目標としています。

会の名前は決して後退しない、少しづつでも前進あるのみの意で、現在会員数は三十四名。十分趣旨を理解してくれた人が加入しています。授産施設を作るために、資源回収にも力を入れており、最近では理解者も徐々に増え、とって置いてくれたりも多くなってきています。

みどりの会

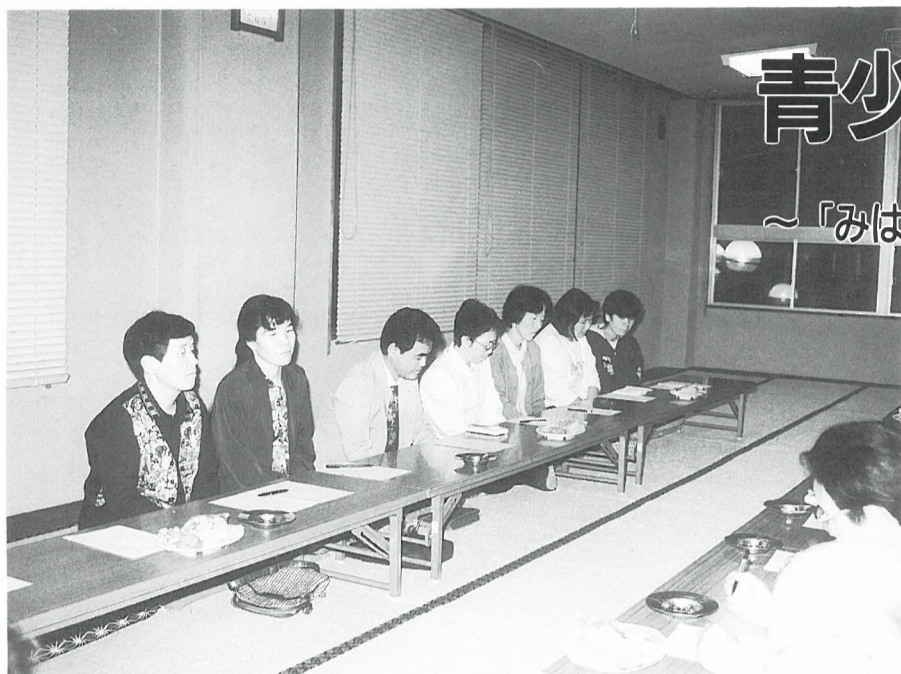
昭和六十二年頃から活動を開始し、年一回楽しみながら人形劇やギター等文化的な催しを行ってきており、今年にはクラシックギターのコンサートも予定しています。会員は旧町内の人を対象とし、現在大人の会員七名。催しの当日には不

みどりの子供会

八幡町を対象としており、現在会員数は三十四名。毎月第一日曜日に、あいさつとゴミ拾いを行っているほか、廃品回収、宝探し、七夕、湖水浴、芋煮会、クリスマス、三年生を送る会など色々な行事を行っています。女性で仕事を持っている人が多く、バス旅行を企画する際に人数集めが大変ということ。各々の子供の性格を把握していくのは大変なことながら、「色々な場所に連れて行ける、子供達があいさつ・声かけが出来るようになった、近所に多くの知り合いができて親同士のつながりも出てきた」などをこれまでの成果とし、次の行事の準備に力を入れています。

# 青少年活動団体との座談会

～「みはるっこの会」「かたつむりの会」「みどりの子供会」～



子供との接点、誉めることが大切では  
スポーツや趣味を通じふれあいを

(司会) 次に話を進めていきたいと思ひます。

(みどりの子供会) 物、金が豊かになり、生活が良くなって、部屋にこもり切りだから肥満になってしまうんです。遊びを通して学ぶことが減ったと思うんです。

(広報委員) ライターもマッパも包丁も使えない子供が増えています。芋煮会で火のつけ方を教えただけでも子供たちが感動するんですよ。

また、子供との接点を大切にすべきだし、子供を誉めることも必要だと思ひます。

(広報委員) 最近読んだ本に、親が子をほめる時にいくつの言葉を知っていますか、というのがありました。百十あるそうですよ。「頑張れよ」では、誉めたことにはならないと思ひます。

親子ではなかなか冷静に話が出来ないものなんです。が、よその親と話をすると、普段気付かなかった子供の意外な面が分かると思ひます。

スポーツや趣味を通して、よその人と付き合うことが出来る場を作ってあげることで、施設を作ることとは

## 心の触れ合いでまちづくり

(かたつむりの会) 子供たち相互のタテのつながりについて言いますと、祭りの時、御輿を担ぐのにも学年が違つていやがるというのがあります。全くと言って良いほどタテの関係が無いんです。

自閉症の親の会をつくりたいということで呼ばれたことがありました。この子なら普通の学級で大丈夫と言つたら、その子の姉がイヤだと言つたという話は辛



かたつむりの会  
山口さん

また別の観点から親としてやってあげられることの一つではないでしょうか。

(みはるっこの会) 誰か一人を悪者にするのはなく、悪者を作らないことが大切なのではないと思ひます。

公園を作つてもらつた、管理はどうする、行政はどうしてくれるんだではなく、公園を作つてもらつた、草が生えてきた。この後ほん



かたつむりの会  
渡辺さん

とに必要なのは「ボランティア」だと思ひます。他人のせいにしていただけのでは、うまく回っていかないのでは

と思ひます。子供たちを無菌室に置いておいたのでは駄目で、小刀で怪我をすれば痛さを学ぶんですよ。小さなことからでも子供は何かを学ぶと思ひます。親はもっと広い心で子育てをすべきだと思ひます。

整地されてなくても良いから広いスペースをと思ひます。子供たちの有り余るエネルギーをどうするのか。試験勉強で疲れた時、ランニングも出来るような広いスペースをと思ひます。



みはるっこの会  
金子さん

つける、人間の心の触れ合いで、やさしいまちづくりをと痛感します。

私の娘も自閉症だったんですが、第一保育所に行つていた時に大きく伸びたんです。子供たちの世界で、自然にルールを身に付け、その時の友達が今でも声をかけてくれます。

物理的空間も必要ですが、人間の触れ合いが絶対必要だと思ひます。お互いを思いやる「やさしいまち」を皆で作つていきたいと思ひます。

(司会) 色々なお話をうかがい、やさしいまちづくりの方向が見えて来たような気がします。

どうもありがとうございました。



### 集積ボックス

▼最近、「出したゴミが、回収前に犬や猫、またはガラス等に散らかされて困つた」という話をよく耳にします。

▼この対策の一つとして、集積ボックスを設置し、利用している方にちよつと話を聞いてみました。

Q 費用はどのくらい?

A 七、八万位ですね。

Q 字の援助は?

A 一、二万位かな。

Q そのほかの費用は?

A 使用する軒数で等分しました。

Q 利点はどんなこと?

A ゴミを散らかされる害はなくなりました。

Q 困つたことは?

A 他の地区の人が車で捨てていくんですよ。

それに、バッテリーなどの産業廃棄物もありますね。

▼町内数ヶ所で集積ボックスを見かけるようになったが、設置には、場所や金額等の問題もあり容易ではないようです。

手近なりサイクル

▼今回、何人かの方に、実際に身の周りで行われ

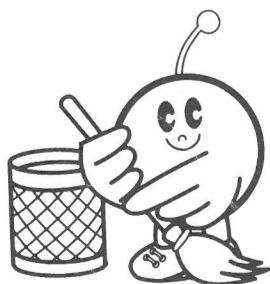
ているリサイクルの体験談をうかがいました。

Aさん「ゴミの出し方も色々あると思ひます。まだまだ使える物を捨てるのは心が痛みますよ。私の場合、子供たちの衣類なんかは、近所の方に着れるものがあつたら使つてねと言つて、受け取っていただきました。私自身、親戚からのおゆずりで子育てし、大変助けられました。」

Bさん「去年、いらなくなつた座布団を白山荘に寄付したいという方がいましたので、一緒に白山荘へ持つて行き、とても喜ばれました。」

Cさん「私の家では、使わなくなつた家具を知人に受け取つてもらい、大変喜ばれました。」

▼皆さんのまわりでも、気付かないうちにリサイクルされているかもしれない。リサイクルは、ゴミを減らすとともに合理的な考え方で、家計の助けにもなると思ひます。一度家族で、簡単にできるリサイクルについて話し合つてみてはいかがでしょう。



# 三春の女一人

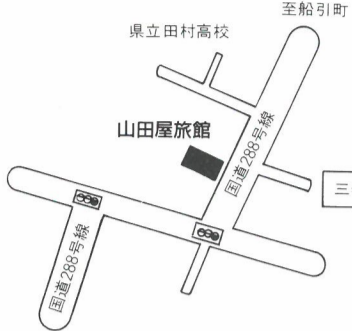
突き抜けるような青空のもと、音もたてずに舞い落ちた枯れ葉を、サクサクと踏みしめながら歩いている音にロマンを感じ、北町の山田屋旅館へ行ってみました。

ここは、大正十四年十一月初旬、若山牧水が喜志子夫人と一緒に、東北、北海道巡遊の折り、師弟関係であり、三春の梢短歌会を中心であった天野多津雄の縁故で投宿した由緒ある旅館です。

山田屋の庭の木に  
雪降り

この句は、伝え聞くところによると、北海道で雪をみることでできなかった牧水が、三春に泊まった朝、山田屋旅館の庭に雪が降ったときの感動を詠ったということ。

この歌碑が、山田屋旅館の庭にあるということですが、残念なことに、現在旅館業を営んでいないため、



趣のある山田屋旅館の門構え

門が開ざされていってみることができません。けれども旅館の前にたたずんでみると、牧水が訪れた時がそのままあるような、そして、牧水と三春の短歌会の人たちが、句をひねりながらにぎやかに論じている声が聞こえてくるような風情が感じられます。

牧水はまた、滞在中に山田屋の主人や天野先生と連れ立って滝桜を見に行き、冬枯れて花のない滝桜を見て、

と詠っています。自然歌人の牧水の暖かさが伝わってくる句ではないでしょうか。このほかにも、色紙や短冊がこちらに残っているそうです。



旅館の庭にある歌碑

また、牧水の奥様の喜志子さんが編集したという梢会の白石愛子さんの遺稿集が家族に大事に保管され、当時のまま残っているという事です。

人恋しい季節の中、三春を訪れた文人を振り返ってみて、心が豊かになり帰路につきましました。

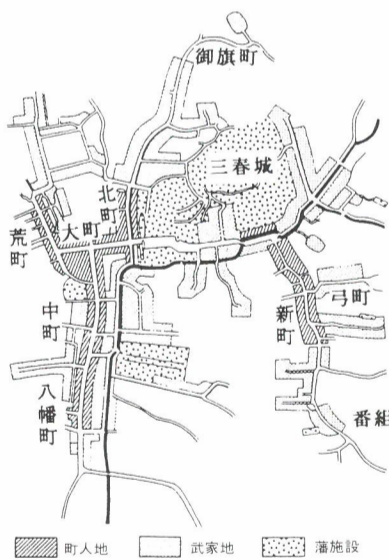
白玉の歯にしみとほる  
秋の夜の  
酒はずかに  
飲むべかりけれ

幾山河越えさり行かば  
寂しさの  
はてなむ国ぞ  
けふも旅ゆく

いつかどこかで聞いたことのある牧水の句ではないでしょうか。機会があればぜひ訪ねてほしい三春町の格調高い名所です。

## 町の歴史

大町、中町、八幡町、北町、荒町、新町。これは現在の三春を、大きく分ける地区の名称であるほかに、江戸時代からの町人地である字の名称でもあります。城下町の三春には、この六町のほかに昔から町の人たちに親しまれてきたたくさんの方の名称や山や坂などの名前が残されています。そこで「三春わが街」では、こうした地名の由来について考え直してみよう、その土地ごとの歴史を振り返ってみたいと思えました。今回は、最初なので個別の地名についてはなく、町全体を見回してみたいと思います。



江戸時代の三春の城下町は、最初に挙げた六つの町

## 協会長よりひとこと

三春まちづくり協会  
協会長 横山 昭治

「三春まちづくり協会って、一体どんな仕事をしているの？」と聞かれることが度々あります。

当協会は、三春に住んでいる私たち一人ひとりが、豊かな心とやさしさをもって、家庭、近所、職場で、仲良く助け合い、良い人間関係を築き、住み良いまちづくりをしようという目的で設立されてから十年以上の歳月が過ぎました。

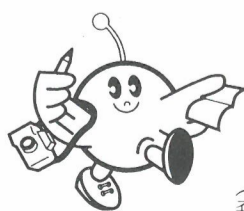
組織としては、生活・環境・街並・老人福祉・土地利用の五部会と広報委員会があり、区長さんをはじめ各層から選ばれた方々が、青少年健全育成、ゴミの減量化、花いっぱい運動、三春らしい街並整備、ふれあいの集い、ニコニコ道路表示板設置など、幅広い運動で枚挙に暇がない程です。

クリンアップ作戦、まちづくり懇談会等も大きな仕事の一つです。これからの多様化される社会の中、町民参加のまちづくりを、皆様のご協力を頂きながら、コミュニティ活動の輪を広げていきたいと思えます。

この「三春わが街」は、協会と皆様を結ぶ情報のパイプラインとして、まちづくりのコミュニティの広場としてご愛読頂ければ幸いです。

## 編集後記

今回から、副委員長としてこの広報を担当することになったのですが、いつもは写真を中心に仕事をしていれば良かったのに、委員会の運営をしたり、ほかに自分の仕事が入ったりで、非常に大変でした。特集では、各団体の方々に二回も集まっていたいただき、ありがとうございました。



(飛田)

特集「子供たちにやさしいまちづくり」座談会にご出席の皆様、ありがとうございました。紙面で紹介しきれない有意義なお話がたくさんありました。また別の機会にぜひ取上げたいと思います。

表紙取材では水墨画の魅力を再発見しました。「三春まちづくり協会」は、いろいろな活動をしています。次号は来年の三月発行予定です。取上げて欲しい町の問題など事務局にぜひお寄せください。

(永井)

コミュニティだより  
「三春わが街」第十七号  
発行日 平成六年十二月一日  
発行 三春まちづくり協会  
編集 三春まちづくり協会  
広報委員会  
(題字 渡辺弥七さん)